

氏 名 安部 孝文
学位の種類 博士 (医学)
学位記番号 甲第489号
学位授与年月日 平成30年3月23日
審査委員 主査 教授 渡部 広明
副査 教授 竹下 治男
副査 教授 佐倉 伸一

論文審査の結果の要旨

青少年のスポーツ傷害に伴う運動器疼痛はスポーツのパフォーマンスを低下させるだけでなく、日常生活動作QOLの低下や心理的影響を与えることが報告されている。従来、この運動器疼痛の外的なリスク因子について、メンバーの管理状況（レギュラー選手かどうか、チームメイトの人数）には着目されていなかった。本研究の目的は、チームスポーツにおけるチームメイト数が少なくかつレギュラー選手であることが、運動器疼痛のリスク因子であるか否かを明らかにすることである。島根県雲南市の全中学・高等学校のチームスポーツに所属する632名を対象に自記式質問票により評価した。チームメイト数の多寡は、Teammate Quantity Index (TQI) = [学年内チームメイトの人数] / [スポーツに必要なプレーヤー数]として計算した。運動器疼痛（全般、上肢、下肢、下肢）を従属変数、TQIの2群（高TQIまたは低TQI）とレギュラーかどうかの2群（レギュラーまたは非レギュラー）の組み合わせ（4群）を説明変数とするポアソン回帰分析を行った。結果は、44.3%が少なくとも週に1回以上の運動器疼痛を身体のいずれかの部位に有していた。多変量解析の結果、高TQIかつ非レギュラー選手と比較して、低TQIかつレギュラー選手は、腰痛の有病率が有意に高かった。（8.3% vs 21.3%、PR= 2.08 [95%CI1.07-4.02]）。その他の運動器疼痛（全般、腰、下肢）の有病率は、低TQIかつレギュラー選手が最も高かったが、有意な関連はなかった。チームメイトが少なくかつレギュラー選手は、腰痛を有する危険性が高いことが示唆された。本研究はスポーツに関連した運動器疼痛の発生がメンバーの管理状況に影響されることを明らかにし、予防対策への一つの根拠を示すものといえ、学位に値する。